この植物学名辞典は「トップ画面」と「ご意見等はこちらへ」の画面を除き、すべてPDF形式としてあります。PDF形式のページは「トップ画面」とは別のタブで表示されるので、「トップ画面」に戻るときは開いたPDF形式のページのタブを閉じるようにしてください。

PDF形式のページでの操作は下記のようにしてください。

もしPDF閲覧ソフトをお使いでなければ、ネット上から“Adobe Reader”をダウンロードしてお使いください。（無料）

操作方法	1.	表示サイズの変更や[しおり]の表示方法については使用中のブラウザの操作方法に従ってください。
	2.	辞書は多数のページで構成されているので、「しおり」を表示させ、知りたい学名の綴りに近い見出しをクリックすれば早く目的の学名にたどり着ける。
	3.	「しおり」に下位の「しおり」がある場合はクリックして下位の「しおり」を開く。
	4.	調べたい学名が画面上に見えなければスクロールして探す。
	5.	当ページの閲覧終了後、他のページに移りたいときは当ページのタブの「×」をクリックしてページを閉じるとトップページが見えるようになるので、そこからつぎのページに移動します。当ページを開いたままにして他ページを見たいときはトップページのタブに切り替えて、トップページを表示させ、目的ページを開けば両ページのタブは表示されたままになります。

属名辞典、表の見方	「性」欄	属名の性を示す。m：男性名詞、f：女性名詞、n：中性名詞 種名を示す「属名」＋「種小名」で、種小名の語尾は属名の性によって変化する。
	和属名	属名に対応する和名、和名のない場合は空欄
	科名	属が属する科名
	意味	赤字はインターネットなどでその属名の意味の解説が見当たらなくて、周辺の情報から推定した属の意味。
	地名	属名が地名に由来している場合「○」
	人名	属名が人名に由来している場合「○」
種小名辞典、表の見方	種名	最左欄：種名(形容詞または形容詞的用法のときはm(男性形)。
		種名欄が赤字の場合はこの種小名が名詞形、または名詞に準ずる使用法となっている場合であることを示す。
		m(男性形)、f(女性形)、n(中性形)は、使用する植物の属名がそれぞれm,f,nに対して使われる語尾
	語尾変化の見方（例示）	abrotanus、-a、-umとあるのは、それぞれ、(m)：abrotanus、(f)：abrotana、(n)：abrotanumと変化することを示す。(m)：男性形、(f)：女性形、(n)：中性形
		acaulis、-is、-eとあるのは、それぞれ、(m)：acaulis、(f)：acaulis、(n)：acauleと変化することを示す。
		antennifer、era、erumとあるのは、それぞれ、(m)：antennifer、(f)：antennifera、(n)：antenniferumと変化することを示す。
		ater、-tra、-trumはそれぞれ、(m)：ater、(f)：atra、(n)：atrumと変化することを示す。
		angustior、ior、iusとあるのは、それぞれ、(m)：angustior、(f)：angustior、(n)：angustiusと変化することを示す。
		aberrans、←、←とあるのは、(m)、(f)、(n)、で同形であることを示す。
		Acetosa、-、-とあるのは、元が名詞形で性に無関係のことを示す。
		anceps、-cipitis(複)とあるのは属名が複数形の場合に取る変化を示す。性によっては変化しない。
	地名、人名欄	地名由来,人名由来の場合を○印で示した。
	植物例	属名で、「○○ ×× var.(またはf.、ssp.) ~」とあるのは、ここに示す種小名が変種(等)名であることを示す。
		属名で、「○○ ~ var.(またはf.、ssp.) ××」とあるのは、ここに示す植物名例はこの種小名を持つ植物の変種であることを示す。
		植物名例の和名欄で青字は園芸名、流通名であることを示す
		「性」欄は、この属名の性を示す。
種小名接頭語接尾語用語集		種小名につき、その接頭語、接尾語、および植物学名の一般的用語をまとめました。